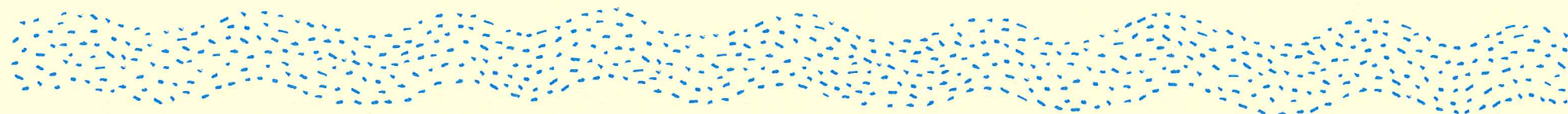
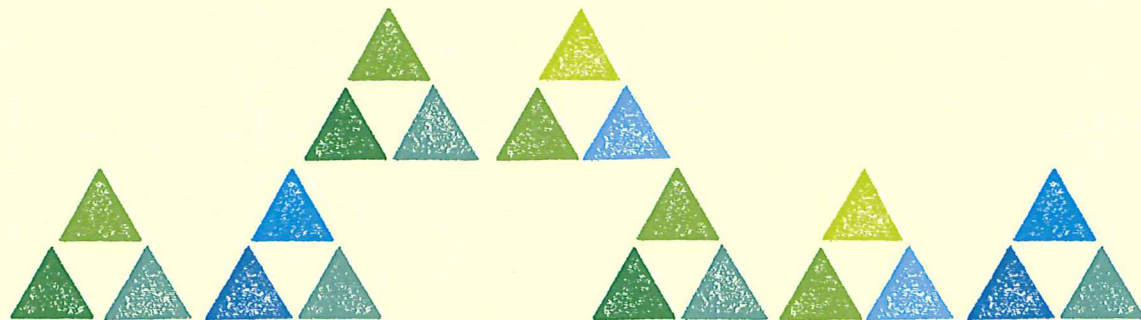


2012 遠賀町 町勢要覧

# おんがのススメ



## 町章

昭和47年に公募によって選ばれたものです。遠賀町の頭文字でもある「オ」をデザイン化したもので、町民の団結と融和を表現し限りない町勢の躍進を象徴しています。



## シンボルマーク

平成6年に公募によって選ばれたものです。遠賀川の波と太陽をイメージし、驚きのマークは遠賀町の新しい発見や地域の活性化を意味しています。左に伸びている花は、町の花「スイセン」です。

2012 遠賀町 町勢要覧 おんがのススメ

発行 遠賀町役場

〒811-4392

福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀513番地

TEL 093-293-1234 FAX 093-293-0806

URL <http://www.town.onga.lg.jp/>



「食と農の町、遠賀町」

2

遠賀町の風景を彩る米と麦。いろいろな人が育んでいます。「米・麦」

— 尾崎菅農生産組合  
— 木守機械利用組合  
— 岩崎公彦さん



愛情いっぱいあわせなトマトです。「トマト」

— 舛添博孝さん

寒い冬、黙々と世話した菜花です。「菜花」

— 杉淳さん

フルコースもできるふき料理。いろいろ召し上がれ！「ふき」

— 瓜生保司さん・正代さん

厳しい基準をクリアしたら「とよみつひめ」に。「いちじく」

— 森昭徳さん

遠賀の働きバチが作った地元のはちみつです。「はちみつ」

— 村田さなえさん・智彦さん

知ってほしい。「育てる」から、「食べる」までのつながり。「大豆」

— 高家の未来環境を守る会



「遠賀の食！おんがめし」

「遠賀の特産品」

おんが米麴

遠賀の赤芋(芋焼酎)

遠賀の雫(雄町純米大吟醸)

遠賀の雫(第二章)(雄町純米焼酎)

遠賀町食生活改善推進会

遠賀町の郷土料理

「遠賀町新聞」

14

「遠賀町」を伝える

昔からつづく風景——旗生良徳さん

「農」から考える環境——筋田靖之さん

「遠賀町」を受け継ぐ

遠賀町の昔「遺跡・文化財」

四季折々のお祭り「祭り・芸能・イベント」

遠賀町の歩み

遠賀町の歴史

「おんがらいふ」

20

遠賀町へのメッセージ

地域ぐるみで子育て、大人育ち

ずっと学び、楽しむ

がんばる遠賀の産業

「遠賀町へようこそ」

28

主要施設マップ

主要施設一覧

31

統計データ

遠賀町議会

行政機構図

「町勢要覧の発行にあたり」

遠賀町長 原田正武



ここ！

福岡市

北九州市

九州

遠賀町

私たちの住む、遠賀町。  
いつでも学び、楽しむ、おんがらいふ。  
それが、おんがのススメです！

いいとこばい！



おんがのススメ

人も食も農も全部。

遠賀町

みどころ、あります。

どこまでも続きそうな

あたり一面に広がる田畑。

そんな遠賀町には、

人の笑顔がいっぱいです。

遠賀町には旬の人、

おいしいもの、こだわりの農作物、

いっぱい、いっぱい。

食べて笑って、学んで遊んで

毎日をご馳走です。





一生懸命育てた遠賀町の米。  
「いただきます」の意味をかみしめて  
食べ物を大事にしてほしい。

田んぼで黄金色に色づいた稲穂が揺れています。稲刈りが待ち遠しい！

米・麦



遠賀町の風景を彩る米と麦。  
いろいろな人が育んでいます。

田畑のそばには、作物を見守り育てる人たちがいます。熱い想いを胸に、1年を作物とともに過ごします。



▲田植え直後の6月、水を張った田んぼに並ぶ小さな苗。きれいに空が映るのもこの時期ならではの。

季節の移り変わりとともに多様な表情を見せてくれる田畑。春、遠賀町では多くの田んぼでれんげ・菜の花が咲き誇ります。花を楽しんだ後はそれを土に鋤き込み、環境にも人にもやさしい緑肥に。初夏、田植え後の田んぼは満面の水をたたえて空を映しだします。盛夏には青々と稲が育ち、秋には豊かな収穫を約束して、黄金色に輝く稲穂。こうして遠賀町のおいしい特産米はできているのです。

また、稲刈りの後の畑に撒いた麦は冬の間に成長し、春に青い穂をつけ、梅雨の前にはしっかりと実ります。彩り豊かな田畑には、それぞれの想いを胸に、作物を見守り育てる人たちがいます。

遠賀町にはいくつかの組合があり、機械を共有して農業に取り組んでいます。尾崎営農生産組合では米・麦・大豆を栽培。「尾崎の田んぼはすべて自分のもののように大切に思っています。肥料は堆肥で除草剤も使いません。尾崎の米はどれを食べてもおい

しいですよ」と組合長の門司好弘さん。また木守機械利用組合では、一人ひとりの米に対する思いを尊重し、麦・大豆は共同で、米は個人で育てます。「米には思い入れが強いので、自由に創意工夫します」と組合長の芳村正博さん。組合員のひとり、村田次夫さんは農業雑誌などで気に入った方法を積極的に取り入れるそうです。「思いがけない方法もあるのと一緒に作業をする母が驚かないように、見えないところで試すことがあります。苦勞して育てた米がおいしいと言われると嬉しいですよ」。



▲これから色づく岩崎さんの麦。収穫が期待できそうですね。

上別府の岩崎公彦さんは、町内で広く米・麦・大豆を栽培。手間を惜しまず、ていねいに一生懸命作っています。「大切に育てた米。おいしいですから、大事に食べてください」。



麦畑では穂が揃った青い麦が並びます。



田んぼ一面に咲くれんげ。



のびのびと育ち、粒もきれいな麦の穂。



尾崎の田んぼでは菜の花が満開ですよ。

写真提供/旗生良徳さん



岩崎 公彦さん  
ほぼ1人で広い田畑での作業を行います。おいしい米を作ろうと情熱を傾ける毎日です。



木守機械利用組合  
木守地区22軒の農家が加入する組合です。さらにおいしい米を目指して日々奮闘中。



尾崎営農生産組合  
尾崎地区49軒の農家が加入する組合。環境にもやさしい、自慢の米を作っています。





▲作業の記録をきちんと整理したノートです。菜花をおいしくするためのノウハウが詰まっているみたい。

▲杉さんが育てているのは「花飾り」という品種です。お正月が過ぎたら、すぐに出荷を始めます。

杉さんは、浅木にある稲刈り後の田んぼで、秋から春にかけて菜花を作っています。畑にはきちんとお行儀よく並んだ菜花。春になったら残っている菜花を鋤きこんで、また稲を育てます。



寒い冬、  
黙々と世話した  
菜花です。



▲淡い黄色のかわいい花が咲きます。春から秋の受粉は、働き者のハチが担当。

◀受粉すると、根元がプクッと膨れて、硬くて小さな青いトマトができます。

若松の舂添さんはトマト・米・麦・大豆を育てています。特に力を入れているトマトは「おいしい」と評判ですが、その秘訣は愛情を注ぐこと。居心地のいいハウスでいつも一緒に過ごしています。



愛情いっぱい  
しあわせな  
トマトです。

菜花



作物を育てるのは、  
ひとつひとつの作業の積み重ね  
ですけんね。無事に出荷できると、  
ホッとするねえ。



杉 淳さん

菜花を作り続けて約13年。年を重ねても、技術があればできる作物と思い、菜花の栽培に取り組んでいます。

遠くまで風が吹き抜けていくような広々とした畑で、杉さんは黙々と菜花の世話をしています。「9月までは、ここで米を作っていました。稲刈りの後、畑に元肥を入れ、畑を半分ずつに分けて種まきをし、その後、防除、中耕・追肥の作業へと続きます。年が明けたらすぐに出荷できますよ」と作業の流れを細かく語ってくれました。出荷の最盛期は一年でいちばん寒い時期で、刈り取りのときは震え上がります。畑を見るとおもしろいような菜花がきちんとお行儀よく並んでいます。杉さんの誠実・実直な人柄を反映しているようです。「作物を育てるのはひとつひとつの作業の積み重ね。出荷までこぎつけたら、ホッとします」。春になったら菜花を鋤き込んで、また稲を育てます。

トマト



トマトをおいしくするのは  
やっぱり愛情。生き物なんやから  
手をかけんとだめよね。



舂添 博孝さん

トマトを作り続けて10年。農協のトマト部会のメンバーです。自信を持って、おいしくて安全・安心なトマトを作っています。

舂添さんのハウスでは、ひとつずつ、しっかりと手間をかけてトマトを作っています。「うちのトマトを『おいしい』と言ってもらえるとうれしいですが、これと言って特別な工夫をしていないわけではないんです」。作物を育てるのに大事なものは、むしろ愛情。「愛情と一緒に過ごすことから始まると思いますし、ここは落ち着くから私は一日のほとんどをハウスで過ごしています。居心地もいいし、一緒にいれば自然とトマトの世話もできるしね」。トマトに対する目配り・気配りが当たり前になっている舂添さん。視線はずっとトマトに注がれ、手を絶えず動かして、ていねいに世話を続けています。確かな技術を持ちながらも、愛情を大切に舂添さんです。





▲大人の腰ぐらいの高さで太い枝を横にはわせる「一文字仕立て」で栽培。作業が楽で世話をしやすい形です。  
▲葉っぱの付け根にひとつずつ実がなり、8月のお盆過ぎには熟します。

福岡県ではいちじく栽培が盛んです。遠賀町でも最近、県の特産品で甘くてジューシーな「とよみつひめ」の栽培に取り組む人が増えていきます。デリケートで傷つきやすい品種のため、出荷までには難問山積です。



厳しい基準をクリアしたら「とよみつひめ」に。



▲ハウスの中には一面の緑が広がります。



◀刈り取ったふきは、大きさによって分類し、数本ずつラップにくるみ、箱に詰めて出荷します。

遠賀町の隠れた特産品「ふき」。栽培しているのは、木守と浅木の2軒の農家。大きくて柔らかく、あくの少ないふきです。



大きいものは150cm以上あります！

フルコースもできるふき料理。いろいろ召し上がれ！

いちじく



「とよみつひめ」は箱入り娘で、雨にも風にも弱いけん、大事に大事に育てよるよ。



もり 昭徳さん(左)  
もり 孝輔さん(右)  
ふたりは、農協いちじく部会で出会って以来の付き合い。いちじく談義に花が咲きます。

遠賀町では昔から「蓬菜柿」や「榊井ドーフィン」という品種のいちじくが作られています。平成18年に県の特産品として誕生したことをきっかけに、「とよみつひめ」の栽培を始める人が増えていきます。森さんと毛利さんが「とよみつひめ」を育て始めたのは平成20年から。形傷などに厳しい基準があり、それらクリアしなければ「とよみつひめ」として出荷することはできません。甘くてジューシーですが傷が付きやすく、栽培には細かいところまで気を使うそうです。  
大事に大事に育てられた「とよみつひめ」は、皮をていねいにむいたあと少し凍らせてから食べるのがおススメ。残暑の厳しい夏に味わうことができる最高に贅沢な食べ方です。ぜひ試してみたいですね。

ふき



ふきには食物繊維やビタミン・ミネラルがたっぷり！家庭で「ふき料理」を、もっと楽しんでみませんか？



うりゅう 保司さん  
やまおか まさ代さん  
夫婦で仕事仲間のふたり。多忙期にはパートさんにも手伝ってもらい、職場は和気あいあいです。

瓜生さんは、木守の白木さんに誘われてふき栽培を始め、15年になります。「ふきは種芋から育てるということを、知っていますか？」と保司さん。「育てながら少しずつ種芋を増やしていきます。だから、これだけの面積になるのにかかるの時間がかかりました」。「お料理の方法をどれくらい知っていますか？」と正代さん。「ふきは食べず嫌いの人も多いと思いますが、煮物や佃煮だけではありません。サラダやかき揚げ、白和えもそれほど手間をかけずにおいしくできるし、がんばればフルコースだって作れます。私たちが育てている水ふきは、柔らかくてあくも少なく、食べやすいと思います。ビタミンやミネラルもたっぷりですよ」。

皆さん、一度食べてみてください！





▲上)水に浸して蒸した大豆  
下)塩きり麹(麹に塩を混ぜたもの)  
どちらも味噌の原料。ふたつを  
よく混ぜ、数か月間熟成させると、味噌が完成します。

▲この日できた味噌を各自樽に  
詰めていきます。「おいしいお  
味噌にな〜れ！」

「高家の未来環境を守る会」では、大豆の栽培・収穫、味噌づくりなどの農業体験を通して、食べ物に対する関心を深めてほしいと考えています。



知ってほしい。  
「育てる」から、  
「食べる」までの  
つながり。



遠賀の  
働きバチが作った  
地元のはちみつです。



▲巣を引き上げたところ。  
蜜がおいしそう。「これから  
まだまだ増えますよ」。



◀ミツバチの巣箱。納め  
られている9枚の板は、  
すべてハチの巣です。

木守の村田さなえさん・智彦さん親子は遠賀町とその周辺で養蜂を行っています。春から夏にかけて採れるのは、れんげ・みかん・モチ・ダラなどの蜜。冬、働きバチは長いお休みを取り、春の訪れとともに甘い蜜を皆さんのもとへ搬んでくれます。

大豆



収穫した大豆を使って  
味噌づくり。  
食べるのが楽しみやね。

はちみつ



春になって、また新しい蜜が  
採れるとうれしいね。



「高家の未来環境を守る会」  
遠賀町高家地区の農家7軒が  
集まり結成した「食」と「農」に関  
する活動を行う会です。

「大豆の種って何でしょう？」  
「枝豆と大豆が同じものだと知っていますか？」  
「お味噌が何からできているか知っていますか？」  
その答えは「高家の未来環境を守る会」で知り、体験することができます。

この会では、10坪の農地のオーナーを募集し、夏から冬にかけて農業体験をしてもらい、収穫した大豆や完成した味噌を持ち帰ってもらう「高家大豆畑トラスト」を行っています。プログラムは、①大豆の種まき ②草取り&枝豆収穫 ③大豆の収穫 ④味噌づくりです。

育てること・作ること、食べること、つながりを考え、楽しい農業体験を通して町の人にも田舎の人とのつながりを強めてほしいと考えています。

「食べ物について学ぶことはたくさんあると思いますよ。それを楽しく発見してほしいですね」。



村田 さなえさん  
とも 智彦さん  
親子で養蜂に取り組んでいます。町内でよく巣箱を置くのは上別府地区です。

村田さんのはちみつは、れんげの花が咲くころから採れ始め、その後みかん、モチ、ダラの蜜と続きます。ミツバチの巣箱を置いているのは、遠賀町内と北九州市若松区。花の状態を見て、どこに置くかを調整するそうです。

「花を追いかけて日本を縦断する養蜂家の話も聞きますが、うちでは住まいから通えるところのみです」と智彦さん。年間で一番多く採れるのはダラの蜜。8月のお盆過ぎに花が咲き、ミツバチが増えてくる時期なので、自然に蜜の量も増えます。

ダラの蜜を採り終えたら、そろそろ冬を越す準備。冬の間はミツバチも長いお休みに入ります。

「コンスタントにお渡しできるよう、気を配ってはいますが、冬の間はどうしても品薄になります。春になってまた新しい蜜が採れるとうれしいですね」とさなえさん。





丹精込めて作った農産物と町を想う熱い気持ちを活かした酒と焼酎です。

遠賀町らしさを活かした酒と焼酎

芋焼酎

雄町純米大吟醸 遠賀の雫

雄町純米焼酎 遠賀の雫

第二章



遠賀町ならではのこだわりの酒と焼酎。飲んで、笑って町おこし。



酒・焼酎

「遠賀の雫～第二章～」 「遠賀の雫」 「遠賀の赤芋」

「遠賀町をアピールする手土産がない」「もっと遠賀町を知ってほしい」という声に「それなら、遠賀町ならではの、こだわりのものを作ろう」と多くの人が一念発起。

遠賀町商工会は、本格芋焼酎「遠賀の赤芋」を生み出しました。九州沖縄農業研究センターに依頼して選定した遠賀町産の甘い赤芋と、遠賀町特産米の麴が原料です。杜氏は鹿児島黒瀬杜氏組合の黒瀬勉さん。濃密な甘さ、旨さと芳醇な香りを持つ、ベテラン杜氏の会心の作です。

一方、遠賀町青年部活性協議会からは、「遠賀の雫」と「遠賀の雫第二章」が誕生。酒造米にはJA青年部が栽培した「雄町」を使用し、遠賀川の上流にある嘉麻市の大里酒造の協力で、辛口で香り高く、のどごしのよい酒となりました。また、その酒粕から作った「遠賀の雫第二章」は、さわやかでくせがなく、飲みやすい純米焼酎です。手土産にもよし、自分で飲んでもよし。ぜひ、一度ご賞味あれ。



米 麺



ベトナム風米麺

「おんが米麺」に込められているものは、いろいろな人の夢や希望、ロマンと挑戦。まだまだがんばり続けるから、ずっと遠くを見ているけれど、今日の一步もちゃんと見ている。

たくさんの想いの結晶

おんが米麺

おんが米麺プロジェクト進行中。  
あなたの一口一言が  
おんが米麺を進化させます。



イタリアン米麺



遠賀郡4町の商工会・JA・漁協が共同開発した「おんが米麺」は遠賀郡の新たな特産品です。遠賀の米で作られた、つるつるとのどごしのよい上品な麺。一度食べたらいしくて、やみつきになりますよ！

いつでもどこでも食べられるものになったらいいね！  
ラーメンやうどんみたいに。



肉うどん風米麺



おんがちようせいねんぶ かいせいきようぎかい 遠賀町青年部活性協議会

同じ町にいるのにこれまで接点がなかった商工会青年部とJA青年部が「一緒に町おこしをしよう」と手を携えて結成しました。今ではさまざまな場面で気軽に協力できる仲間です。



おんがちようしやうこうかい しょうちやうじぎやういんかい 遠賀町商工会 (いも焼酎事業委員会)

遠賀町の特産品づくりに取り組んでいて、現在は「遠賀の赤芋」を使ったスイーツづくりなどに挑戦しています。



左から  
芳村 正博さん [木守機械利用組合長]  
谷口 淳二さん [遠賀屋 店長]  
船津 敬明さん [遠賀町商工会 経営指導員]

米麺の材料になる遠賀町の特産米を提供する芳村さん、「遠賀屋」で製麺と料理を担当する谷口さん、ふたりと連携しながら米麺をPRする船津さん。業種は異なりますが、チームワークはバッチリです。

「地元の材料を活かした特産品を作りたい」「商業から地産地消に貢献したい」「米どころとしての歴史、田んぼのある風景を守りたい」「米の新しい食べ方を提案したい」などいろいろな人の想いがギョッと集結。遠賀郡4町の商工会・JA・漁協が力を合わせて、「おんが米麺」が誕生しました。つるつるとのどごしのよい米麺は、どんな料理にも合う遠賀郡の新たな特産品です。また、さまざまな地元の食材を麺に練り込むことで、料理のバリエーションも広がります。「いつか、もっとどこでも気軽に食べられるものになりたい」と関係者は今も奮闘しています。

JR遠賀川駅にある米麺レストラン「遠賀屋」の谷口さんは、特産米で作った遠賀町オリジナルの「おんが米麺」にこだわり、創作メニューを続々開発中。季節の米麺もおススメですよ。





◎フナのなます(ヌタ)

泉原さんが見よう見まねで作るようになった料理。「味見しながら作るし、レシピなんか聞かれたら困ります」。大根・人参はいつも包丁で丁寧に切ります。野菜スライサーなどの道具を使うよりも、断然おいしいとか。なますはいろいろな魚で作りますが、昔は川にいるフナなどを使っていたそうです。

お漬物ももちろん手づくり。家の畑で採れた白菜はいい!



いづみはら てるこ 泉原 照子さん

生粋の遠賀っ子。遠賀町の尾崎で生まれ育ち結婚してからは別府に住んでいます。小さい頃、親に言われよく川にタニシなどを採りに行き、持ち帰って料理してもらっていました。今ではなかなか見られない光景ですよ。

遠賀町に伝わる自然の恵み



遠賀町の郷土料理



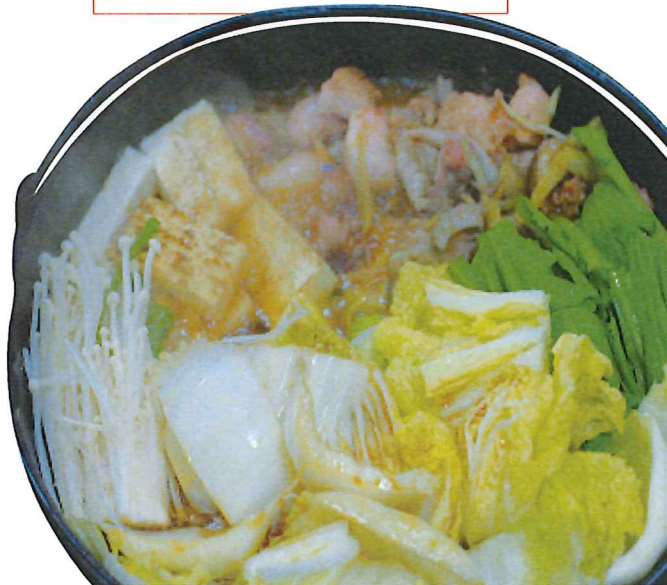
郷土料理

◎川エビの佃煮

川で採れたエビを油で炒めた後、酒・しょうゆ・みりんで煮て、おいしい佃煮にしました。今ではめったに食べられない貴重品です。

◎鶏すき鍋

今でこそ少なくなりましたが、昔は田舎の家庭で鶏をよく飼っていました。自分で育てたからこそ、命の大切さを感じられます。



「家族や地域の食生活改善!」元氣いっぱい女性の女性たち。あふれる想いと知識を持ち町のために活動を続けています。



食のこことなら「食進会」!

遠賀町食生活改善推進会

知識と向上心、愛と行動力がみなぎっています。

「私たちの健康は、私たちの手で」。食と健康に関する活動をパワフルに展開しています。



食に関するこって、知れば知るほど面白いとよ。

食進会



▲気ごころの知れた仲間同士、一緒に料理するときも自然に手分けして手際よく。あっという間に数種類もの料理ができていきます。



◀今日は小学校のクッキングクラブ指導へ。この日のメニューはみんなが大好きなケーキ。「自分のおやつもこんなふうにして作ってみたい?」みんなでおいしいものを作って食べて、楽しい時間です。

食生活改善推進会は全国的な広がりを持つ組織です。メンバーになるには、市町村が開催する「食生活改善推進員養成教室」に参加し、食生活改善や健康づくりに関する数十時間の講習を受けなくてはなりません。こんなハードルがあるにもかかわらず、遠賀町にはおよそ60人ものメンバーがいて、食生活改善を通して健康な家族や地域の人がつくりのために、日々、元気に活動を続けています。

主な活動内容は、料理教室の開催や食生活改善の相談。ほかにも町のお祭りでの健康食の提供、ひとり暮らしのお年寄りへのおやつ作り、小学校でのクッキングクラブ指導など盛りだくさんです。忙しいスケジュールの中、予定をやりくりして活動の日には笑顔で集合します。「私たちが役に立てるなら、どこにでも行くのよ。だって楽しいから」。



おんがちょうしよくせいかつかいぜんすいしんかい 遠賀町食生活改善推進会

町内全域から集まったメンバーは、いつも和気あいあいと、楽しんで活動しています。お互いの顔を見て情報交換するのが、元気の源。仲間同士でいろいろなことを教え合います。食と健康に関することは私たちに任せください!

遠賀では昔、「すき焼き」といえば鶏肉でした。牛肉だとわざわざ買わなければいけません。鶏であればどこの家庭でも飼っていたから、鶏肉は昔はわざわざお金を出して買わなくても、食べられるものが多いと周りにあったそうです。「よく川で魚や貝を採ったものです。遊びはもちろん、親の言いつけで行ったこともあります。ほかにも春には土筆を採りましたよ。畑で作物を作っていました。それが、それ以外に育てなくても食べられるものが、ごく自然にたくさんありました」。

「鶏は庭で放し飼いにしているのをよく見ましたね。米のくずみみたいなものを食べさせていましたから、餌代もかからなかったし。どこにでもいたから、誰でもさばけたものでしたよ」。鶏肉だけでなく、昔はわざわざお金を出して買わなくても、食べられるものが多いと周りにあったそうです。「よく川で魚や貝を採ったものです。遊びはもちろん、親の言いつけで行ったこともあります。ほかにも春には土筆を採りましたよ。畑で作物を作っていました。それが、それ以外に育てなくても食べられるものが、ごく自然にたくさんありました」。



# 遠賀町新聞

発行所

〒811-4392  
福岡県遠賀郡遠賀町  
大字今古賀513番地  
TEL 093-293-1234  
FAX 093-293-0806

水と緑のまち、遠賀町

www.town.onga.lg.jp/  
遠賀町 検索

紙面もくじ

- ◎「遠賀町」を伝える……………〔14・15面〕
- ・昔からつづく風景・「農」から考える環境
- ◎「遠賀町」を受け継ぐ……………〔16・17面〕
- ・遠賀町の昔・四季折々のお祭り

## 昔からつづく風景 どんな小さな変化も見逃さない 等身大の記録から見えるもの

尾崎地区に住む旗生良徳さんは、長い間、この調査や蝶の採集、風景・暮らしの写真撮影を続けて、標本や写真のコレクションを作り上げています。これらが蓄積されるにつれて、さまざまなことを記録していく大切さが見えてきました。そのことを周りの人に伝えて、記録の取り方や活用方法などについて提案していきたいと、考えを巡らせています。

### ●「今」の独自性

「長い間、標本製作や写真撮影を続け、いつの間にか増えた記録を見ているうちに、さまざまなことが時間とともに変化していることに気づきました。例えば、平成22年の夏は、温暖化の影響からかこの地域にいないはずの蝶が異常発生していました。断定はできませんが、何かが変化しているかもしれません。記録をもっと続けると、それが一層はつきりするでしょう。たまたまつくづく記録を見ているうちに、



▲旗生さんが長年集め続けた蝶の標本。これはほんの一部です。

「今」の時代の特徴は、これまでの変化からつくり出されているし、どんな記録からもそれが分かると思うようになりました。

### ●記憶をつなぐ記録

旗生さんは日常生活や町内の見慣れた風景を丹念に撮影しながら、自宅や近所に残る古い写真の整理も行っています。「昔と今では、いろいろなことが少しずつ変わっていますが、リアルタイムで小さな変化に気づくのは難しいですね。また、昔の事を後から記憶だけを頼りに思い出すと、曖昧になります。そんなときに写真があると便利です。例えば、昔の農家には農作業用の牛馬がいたものですが、今

はどこにもいませんね。写真があれば当時の様子が分かるし、「なんで飼っていたの?」「いつまでいたの?」などの話題で会話がはずみ、そうやって昔の様子を次の世代に伝えることができます。文書もあればなお良いですね。「この生活も変わる」という前提だと、どんなことでも記録する価値があります」。

### ●移り変わるものとどめる

「風景は季節や天候・時間によって、まるで違う表情を見せます。感受性とは違いに気づくことではないでしょうか。実は「どうでも良い、ありふれた風景」は少ないのだと思います。風景は常に移り変わりますから、記憶にとどめたり、比較したり、他の人と共感したりするために写真撮影は有効だと思いますよ」。

### ●「今」の独自性

「長く記録を続けると「今」の独自性が見えますが、一方、記録が広く集まれば、

「この独自性が浮かび上がるのではないかと思います。例えば、さまざまな場所の蝶の標本があれば、それをもとに「この特徴はこうだ」と言えるかもしれません。実のところ、何の記録でもいいのですが、みんなで持ち寄ると、地区や町の独自性がわかるのではないかと思いますよ」。

### ●「今」と「こ」の等身大の記録

「マスメディアでは大きな事件を取り上げることが多いですが、事件にはならない等身大の記録を集大成することで、尾崎や遠賀町のデータベースをつくり、独自の情報を発信することも可能だと思います。壮大すぎる夢かもしれませんが、そうなったら面白いですよ」。

### 旗生 良徳さん

遠賀町と尾崎を思う遠い郷土愛に溢れている。「大事にすべきものが遠くにはなくあるし、「たいしたものだ」と感心する人もたくさんいる。本当はすごいところですよ」。



▲今は途絶えてしまいましたが、かつては尾崎でも山笠が行われていました。その頃の様子を伝える写真。

1941年頃(昭和16年頃)



▲昔は、どこの家でも牛や馬を飼っていました。家畜の世話はずっと子どもが担当することも多かったそうです。家の前で撮った日常の風景。  
=1945年頃(昭和20年頃)  
どちらの写真も旗生 良徳さん提供

## 「農」から考える環境 未来の世代に伝え残したいのは、 安全な大地、すこやかな環境

上別府地区に住む筋田靖之さんは、未来の世代に安全な大地、すこやかな環境を伝えていくため有機農業に取り組み、合鴨農法を経て、現在は無農薬・無肥料で米を育てています。

また、楽しみながらすこやかな農環境について考えてもらうための「自然体験学校」も行っています。

### ●有機栽培と有機農業の違い

筋田さんが手がけているのは有機農業です。有機栽培とよく似た言葉ですが、2つの間には違いがあります。有機栽培は消費者の求めに応じて安全でおいしい農産物を作ること。一方、有機農業は、安全な大地、すこやかな環境を次代に伝えることを一番に考えた農業。一見、同じようにも思えますが、安全な農産物は有機農業においては結果のひとつで、目的ではありません。だから農産物を得るために環境に過剰な負担をか



【自然体験学校:野の花探しと野草クッキング】参加者が集めた野の花について説明をする筋田さんと、それを熱心に聞く子どもたち。

けていないか、いつも自問していました。

●有機農業の目的は安全な未来  
そして行き着いた答えのひとつが無農薬・無肥料です。過剰な農薬の害は知れ渡っていますが、肥料のうち農産物に取り込まれないで畑に残る成分があり、それさえも、実は環境に悪影響を与えているのです。そのため、筋田さんは過剰な施肥も慎むべきだと考えました。しかし、本当にそれで作物が育つのでしょうか?

稲と野菜では事情が異なりますが、稲の場合、肥料は主に茎や葉を育てるために使われ、それ以外の成分は土に残ります。私たちが実際に食べる稲穂の部分は肥料ではなく、光合成により生まれているのです。そのため地方のある田んぼでは、米を収穫した後、わらを鋤きこみ茎や葉を育てるための緑肥にすれば、肥料は必要ないと考えました。実際に肥料をやらないうと自ら養分を吸収しようと根を張る「自立した稲」が育ちます。土に残る肥料の影響は現在あまり疑問視されていませんが、今影響が少ないからといって検証を先送りしてはいけません。「問題になったら考えれば良い」と言う人もいますが、問題が顕在化してからでは解決は困難で、コストが膨大になっていくかもしれないのです。私たちの子孫にそれを担わせたくありませんし、私を育ててくれた環境をそのまま未来に伝えていきたいのです」。



【自然体験学校:田んぼの生き物探し】田んぼの周りで探した虫や小魚・カニなどについて分かりやすく説明している筋田さん。

●町の人とともに環境を守りたい  
残念ながら、有機農産物は手間暇がかかる高コスト商品です。単に安全な農産物がほしいなら、人件費の安い外国で有

機栽培されたもののほうが安く手に入ります。しかし、未来の世代に安全な大地、すこやかな環境を伝えることが目的だと考えるとどうでしょう。「日本の環境を外国から輸入することはできません。農家が育てているのは農産物だけではないのです。農業には町の人々の支えが絶対に必要であり、農業ができる環境を守ることが、有機農業を受け入れていただくことなのです。もちろん、農業だけでなく、解決することはできませんから、もっと大きな活動が必要です。自分にできることは、農業を起点に「自分の環境をどう選択するか」を考えてもらうことだと思います。「自然体験学校」を行っています。ただし、楽しくなくてはいけないので、笑顔でできる活動が続けていきたいですね」。

### 一自然体験学校のプログラム

- 4月 野の花探しと野草クッキング
- 6月 泥んこ田植え
- 8月 田んぼの生き物探し
- 10月 わくわく稲刈り
- 12月 お楽しみ餅つき



すじた やすゆき  
筋田 靖之さん

「私はロマンチストなのかも。有機農業に取り組むきっかけとなった著書は、有吉佐子さんの「複合汚染」やレイチェル・カーソンの「沈黙の春」。



遺跡・文化財

遠賀町の昔

遠賀町は農耕文化発祥地のひとつ 遺跡や文化財の宝庫です

稲作技法・土木技術は中国大陸から北部九州に伝わり、やがて日本全国に広まっていったと考えられています。遠賀川下流域にはそのような古い時代の生活の跡が多く残され、農耕文化発祥地のひとつといわれています。また、先人たちの活躍から数多の文化財も遺されており、町の歴史を掘り起こし、学ぶ活動も盛んに行われています。

遺跡周辺を整備 島津・丸山歴史自然公園

歴史文化財を保護しながらも多くの人々の目に触れ親しんでもらえるようにと、平成8年に島津・丸山古墳とその周辺が、歴史自然公園として整備されました。地元ボランティアの協力により、公園内には四季折々に花が咲き、昆虫や野鳥も数多くみられます。また、開園以来さまざまな催しが行われており、春秋には野点や古代食の体験ができる園遊会、中秋の名月の夜には観月コンサート「雅」が開かれています。

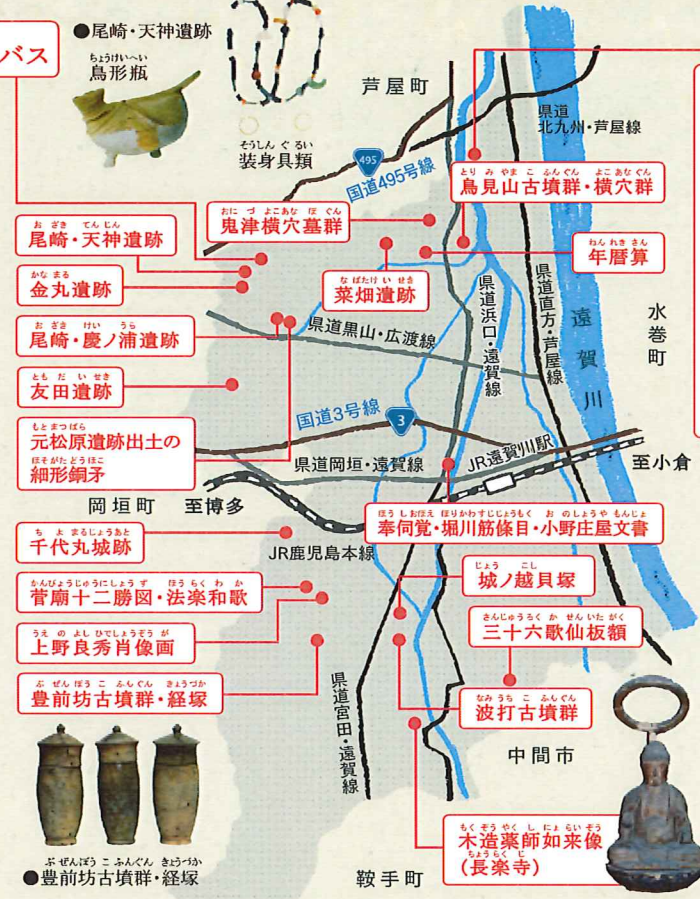


観月コンサート「雅」では月明かりとかがり火の幻想的な雰囲気のもとで古代の音楽を楽しみます。



島津地区の低丘陵上に造られた、遠賀川流域では最古の前方後円墳です。前方部は楕円に細長く伸び、後円部は前方部より高く古式の古墳の特徴を持ちます。築造は4世紀前半頃、埋葬者は当時の有力豪族と考えられています。

主要文化財分布マップ



蟹喰池のオニバス 蟹喰池は、国・県の絶滅危惧種に指定されている。町の天然記念物オニバスの自生地です。オニバスは水中でつぼみの段階に自家受粉する珍しい花で、9月ごろに水面上に紫色の花を咲かせ、葉は成長すると最大直径3mに。種子は毎年発芽せず、最長で55年休眠していた記録が残されています。平成15年以来発芽していませんでしたが、県と町が共同で再生に向けた取り組みを実施した結果、平成23年7月に発芽が確認できました。



●金丸遺跡 磨製石戈、細形銅剣 ●尾崎・慶ノ浦遺跡 ヒスイ製まが玉、双口壺 ●上野良秀肖像画 ●豊前坊古墳群・経塚

ひとくちコラム

歴史探訪

上別府にある菅公腰掛石をご存知でしょうか？菅原道真公が大宰府に向かう途中、海が荒れたために、波が静まるまで入り江だったこのあたりに舟を寄せ、休んだ石だという話が伝わっています。道真公が京都から大宰府に流されたということは歴史の授業で習い、誰もが知っていると思いますが、どういった道を通って大宰府までたどり着いたのかはまだはっきりと分かっていません。道真公の足どりについてはいろいろな考え方があり、今の北九州市若松区あたりで上陸し、その後陸路を取ったという説も後述を歴史には分らないことを探る楽しみがありますね。

祭り・芸能・イベント

四季折々の祭り 昔から伝わる祭りも新しい祭りも どちらも大切に伝えていきます

遠賀町には、一年のリズムを刻む祭りや芸能、イベントが数多くあります。その中には、古くから伝わり受け継がれ、時代に応じて少しずつ変化を続けてきたものと、今の時代の中から新たに生み出されたものがあります。どちらも、時代の背景を静かに語りながら、これからの歴史の中で引き継がれていくことでしょう。

遠賀水踏み唄

途絶えていた仕事唄を、新たな踊りとともに郷土芸能として蘇らせました。遠賀水踏み唄は、川から田んぼに水をくみ上げる作業の際に口ずさまれていた仕事歌。一時途絶えていましたが、「郷土芸能として残そう」と発起した人々が、町内の女性が記憶するメロディーに町誌をもとに歌詞をつけたあと、さらに踊りを振りつけ、蘇りました。



春まつりや夏まつりなど、さまざまな機会で開催されています。これからも受け継いでいきたい郷土芸能です。

おんがレガッタ

遠賀川を舞台に、水上でのスピードを競う熱戦が繰り広げられます。全国市町村交流レガッタ大会の選考会として、平成11年より、九州朝日レガッタと同時に開催されるようになり、町内の企業や地区などから毎年多くのチームが参加し、そのうち男女各1チームが町の代表として全国大会に出場しています。



みんなで呼吸と力を合わせ、水上でのスピードを競います。毎年、遠賀川は大盛況です。

遠賀の祭 老良・島津山笠

古くから伝わる、梅雨明けと本格的な夏の訪れを告げる祭りです。どちらも、五穀豊穡と無病息災を祈願するもので、老良山笠は老良神社に、島津山笠は伊豆神社に奉納される祭りで、老良では山車の前後に飾られる豪華な人形、島津では狭い通路も自由自在に通る技や息の合った様子が見ものです。



老良山笠には大河ドラマや人気アニメの登場人物などが飾られ、ねじり鉢巻と法被装束の人々が練り歩きます。

遠賀の祭 夏まつり

夏の夜空を彩る打ち上げ花火と、圧巻の総踊りで、毎年盛り上がりです。打ち上げ花火に彩られる夏まつりでは、1000人以上の人々が大きな輪を作って盆踊りが行われます。町民だけでなく、町外からの参加者も多く、たくさんの方で賑わう会場には出店も立ち並び、子どもから大人まで、みんなが楽しめる夏の風物詩です。



「千人踊り」は当日の飛び入り参加もOK！間近で打ち上げられる花火は大迫力です。

Event Calendar イベントカレンダー

- 4月 ●春まつり
5月 ●おんがレガッタ
6月 ●ふれあいウォーキング
7月 ●人権講演会
8月 ●夏まつり
9月 ●観月コンサート「雅」
10月 ●スポレクおんが、健康福祉まつり
11月 ●文化祭、ふれあいウォーキング
12月 ●65歳のつどい、人権講演会
1月 ●成人式
2月
3月 ●ふれあいウォーキング



遠賀町の歴史

遠賀町は、これからもみんなの夢と共に歩んで行きます

昭和39年、町制施行により誕生した遠賀町。雄大な遠賀川の眺め、やすらぎの田園風景など豊かな自然の恵みはそのまに、暮らしや教育の環境を充実させていきながら、50年近く歩んできました。先人たちが築きあげた遠賀町の財産を未来へと引き継ぎながら、今日もまた新たな一歩を踏み出します。

明治

- 明治22年 ● 町村制施行により浅水村、島門村が誕生
明治23年 ● 国鉄遠賀川駅開業
明治41年 ● 国鉄室木線開業
明治44年 ● 遠賀川郵便局開局

大正

- 大正4年 ● 国鉄遠賀川駅跨線橋完成
大正13年 ● 遠賀川橋完成

昭和

- 昭和4年 ● 浅水村と島門村の合併により遠賀村が誕生
昭和6年 ● 遠賀村役場庁舎完成
昭和22年 ● 国道3号線完成
昭和22年 ● 国鉄芦屋線開業
昭和23年 ● 遠賀中学校開校
昭和23年 ● 遠賀村農業協同組合設立
昭和28年 ● 遠賀川堤防決壊・大洪水により村のほとんどが水没
昭和30年 ● 遠賀村簡易水道浄水場完成
昭和36年 ● 遠賀川大橋完成
昭和36年 ● 国鉄芦屋線廃止
昭和39年 ● 町制施行により遠賀町誕生(人口9764人)
昭和40年 ● 町全域にわたる国土調査事業開始
昭和40年 ● 遠賀町戦没者慰霊塔完成
昭和40年 ● 島門小学校新校舎完成

遠賀町新聞(年表)

遠賀町新聞(年表)

- 昭和41年 ● 町民体育大会始まる
昭和41年 ● 国勢調査人口8592人
昭和41年 ● 農村集団電話開設(317戸加入)
昭和42年 ● 有線放送施設完成(島津外9地区)
昭和42年 ● 町北部(島津・若松・鬼津・尾崎地区)水道布設事業開始
昭和43年 ● 遠賀中学校新校舎完成
昭和43年 ● 広渡排水機場完成
昭和44年 ● 町北部(尾崎・鬼津地区)上水道事業開始
昭和44年 ● 県道直方・芦屋線立体交差完成
昭和44年 ● 浅水小学校新校舎完成
昭和45年 ● 遠賀川自動電話交換局完成
昭和45年 ● 国勢調査人口9368人
昭和46年 ● 遠賀農芸高等学校(現遠賀高等学校)上別府地区に移転・授業開始
昭和46年 ● 遠賀町水道事業・中間市水道に併合
昭和47年 ● 遠賀郡農業協同組合本所庁舎完成
昭和47年 ● 上別府花園排水ポンプ(移設)完成
昭和47年 ● 第1次遠賀町総合計画策定
昭和47年 ● 県道宮田・遠賀線跨線橋完成
昭和47年 ● 遠賀町庁舎(移設)完成
昭和48年 ● 遠賀郡消防署完成
昭和48年 ● 国鉄鹿尾島本線の歩行者専用跨線橋「あけぼの橋」完成
昭和49年 ● 虫生津排水ポンプ完成
昭和49年 ● 火葬施設「天生園」完成
昭和49年 ● 都市計画用途地域が決まる
昭和49年 ● 国鉄室木線専用蒸気機関車(SL)姿消す
昭和49年 ● 遠賀川郵便局・遠賀川地区に移転
昭和50年 ● 鞍手町・遠賀町水道組合解散
昭和50年 ● 町制施行10周年
昭和50年 ● 国道3号線バイパス開通
昭和50年 ● 遠賀町中央公民館完成
昭和51年 ● 国勢調査人口1万331人
昭和51年 ● 都市計画道路設計画決定

昭和52年

- 遠賀町中央公民館民俗資料館オープン
● 広渡小学校完成・開校
● 学校給食センター完成
● 中学校学校給食開始
● 遠賀町土地開発公社設立
● 広渡小学校ナイター施設完成
● 第1武道場完成
● 遠賀・中間地域広域行政事務組合発足
● 町営遠賀霊園オープン
● 遠賀川河口堰完成
● 曲手排水機場完成
● 前川排水機場完成
● 国勢調査人口1万4188人
● 尾倉配水池(上水道)完成
● 遠賀勤労者体育センター(現遠賀体育センター)完成
● 九州朝日レガッタが遠賀川で始まる
● 北九州市外局番統一化
● 馬頭岳ハイキングコース完成
● 子どもまつり始まる

昭和53年

- 遠賀総合運動公園グラウンド完成
● 遠賀南中学校完成・開校
● 第2次遠賀町総合計画策定
● 町制施行20周年
● 町の木と町の花が決まる
● 町主催による夏まつり始まる
● 国鉄室木線廃止バスへ転換
● 馬頭岳展望台完成
● 国勢調査人口1万5993人
● 第37回福岡県植樹祭開催(町民の森)
● ふれあい広場完成
● 遠賀コミュニティセンター完成
● 遠賀川漕艇場完成
● 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和54年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和55年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和56年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和57年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和58年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和59年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和60年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和61年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

昭和63年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成

- 平成元年 ● 鬼津堰(戸切川)完成
平成元年 ● 尾崎土地改良事業(51ha)竣工
平成元年 ● 遠賀川漕艇場・日本漕艇協会「B級コース」認定
平成元年 ● とびうめ国体夏季大会開催(遠賀川漕艇場)
平成2年 ● 第2期遠賀霊園竣工
平成3年 ● 国勢調査人口1万7107人
平成3年 ● 庁内業務電算化始まる
平成3年 ● 豊前坊古墳群・経塚発掘調査開始
平成4年 ● 第3次遠賀町総合計画策定
平成4年 ● 学校週5日制開始
平成4年 ● 聖人式始まる
平成5年 ● 「出会いの架け橋」完成
平成6年 ● 虫生津土地改良事業(55ha)竣工
平成6年 ● 遠賀町ふれあいの里オープン
平成7年 ● 中学校にALT派遣開始
平成7年 ● 町制施行30周年
平成7年 ● 町のシンボルマーク決まる
平成8年 ● 国勢調査人口1万8999人
平成8年 ● 遠賀川下流域域公共下水道事業着工
平成9年 ● 鳥津・丸山歴史自然公園完成
平成9年 ● 遠賀町庁舎増改築完了
平成10年 ● 農業集落排水供用開始(老良地区)
平成10年 ● ふれあいの里研修棟オープン
平成10年 ● 遠賀町シルバー人材センター設立
平成11年 ● 農業集落排水供用開始(尾倉・若葉台地区)
平成11年 ● おながレガッタ始まる
平成12年 ● ふれあいの里民俗資料館オープン
平成13年 ● 遠賀北部土地改良事業完了
平成13年 ● 国勢調査人口1万9309人
平成14年 ● 遠賀町立図書館オープン
平成14年 ● 第4次遠賀町総合計画策定

平成15年

- 住民基本台帳ネットワークシステムサービス開始
● 遠賀川下流浄化センター供用開始
● 農業集落排水供用開始(遠賀北部地区)
● JR遠賀川駅前広場再整備
● 乳幼児医療の町独自助成開始
● 町制施行40周年
● 西鉄バス芦屋線全線廃止
● 遠賀町コミュニティバス運行開始
● 今古賀中央公園完成
● 春まつり始まる
● 駅前広場のイルミネーション始まる
● 国勢調査人口1万9278人
● 遠賀川交番駅前に移転
● 地域イントラネット運用開始
● 高家土地改良事業完了
● 遠賀・中間リレーセンター完成
● 防災行政無線放送設備完成
● 北九州農業協同組合(JA北九)発足
● 子育て支援ひろば「ぐっぴい」設置
● 西鉄バス宗像・波津線廃止
● 国勢調査人口1万9163人
● 備蓄倉庫完成
● 遠賀町中央公民館リニューアルオープン
● 第5次遠賀町総合計画策定

平成16年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成17年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成18年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成19年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成20年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成21年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成22年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

平成23年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

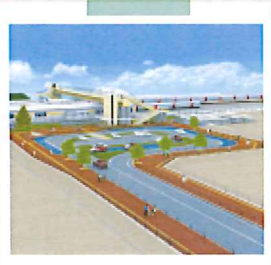
平成24年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成

遠賀川駅南地区新たなまちづくりの推進

「遠賀町」のこれから

JR遠賀川駅南地区では、駅や幹線道路に隣接した利便性の高さと広大な田園地帯を生かした、人や自然にやさしいまちづくりを進めています。



豊かな田園風景が広がり、ゆったりとした時間が流れている駅南地区。その自然豊かな環境を生かし、緑があふれる街並みと良好な住環境の整備を進めています。また、コミュニティバスなどの交通インフラの拡充、駅を中心とした交通結節機能の強化により、徒歩や自転車で暮らしやすく環境にやさしいコンパクトシティを目指します。

ポイント1

田園環境と調和した緑あふれる街並みと良好な住環境づくり



ポイント2

公共交通の充実による環境にやさしいまちづくり



ポイント3

徒歩や自転車で暮らしやすいコンパクトシティづくり





「おんがらいふ」  
みんなで作る  
みんなの遠賀町

遠賀町の  
ココが大好き！

## 遠賀町への

The message to

これからの遠賀町も主役  
大好きなこの町でもっとステキに

## メッセージ

the Onga Town

こんなまちに  
なってほしい！

は私たちみんなです。  
「おんがらいふ」を楽しみます。

「メイドイン・オンガ」  
を作るための環境を  
次の世代へつなげたい！



みんなが  
安心して  
のびのびと  
暮らせる  
遠賀町！



遠賀町は熱くて  
まっすぐな人が多いよ。  
これから、もっと  
面白くなる町やね。



大きな自然に  
包まれて、ゆったり  
育ってほしい。

地元の生産者が  
つくった「顔」見える  
安心・安全の農作物が  
味わえるしあわせ。



やっぱり、  
「食」って  
人をしあわせに  
しますね！

遠賀町の  
自然の恵みに  
感謝！



これからも一番身近な  
「みんなの本棚」を  
目指します！



遠賀川の土手沿いで  
未来の夢を  
語ろう！



豊かな遠賀川と  
どこまでも  
続く田畑。  
未来にも残したい  
心の原風景。



毎日、元気いっぱい  
緑の中を  
走ってます！





子どもも大人も一緒に大きく育ちます！毎日、楽しみながら  
遠賀町にはいつでも、誰かのあたたかいまなざしや差し伸べられる手があります。

子育て真っ最中。@遠賀町

みんなの「のびのび子育て」を応援しています！

「おんがらいふ」  
地域ぐるみで  
子育て、  
大人育ち



Q やさしく、元気な遠賀っこ。  
子どもの道徳学習ではどんな  
ことをしていますか？

A みんなで「じんけんの花・ひまわり」  
を植えて大切に育てています！

「生命の尊さを実感し、やさしさと思いやりに満ちた豊かな心を体得してほしい」と、毎年各小学校の3年生が「じんけんの花・ひまわり」を育てています。そのほかにも、小学校では書道・標語を、中学校では作文・ポスターを制作して、みんなを尊重し、思いやる感覚を育てています。

Q 子どもと一緒に絵本の  
読み聞かせや手遊びを  
楽しみたいのですが？



A 子どもにも大人にも  
おススメです！  
図書館「おはなし会」

遠賀町立図書館の  
イメージキャラクター  
ウッティくん

ボランティアグループや図書館員が定期的に絵本の読み聞かせなどを行っています。子どもにも大人にも「絵本って楽しい！」と思ってもらえるはず。気に入ったらおうちでも、ぜひ一緒に読んでみてください。おススメの絵本が図書館でみんなを待っています。そのほかにも赤ちゃん向けの読み聞かせ「おはなし会0・1・2」もありますよ！



遠賀の子どもはみんなの子ども。

分からないことは人に教えてもらったり、助けてもらったり。

「子どものためのプログラム」、遠賀町にはいろいろあります！

ゆったり  
のびやかに  
自分のペースで  
子育て中



子どもはみんなの宝。分からないことは周りの人に教えてもらったり、助けてもらったりしながら、少しずつベテランのパパ、ママになりましょう。遠賀町では、いつでもどこからかあたたかいまなざしが注がれ、やさしい手が差し伸べられています。必要なときには、その手を借りながら、のんびり子育てしてみませんか？ここには、仲間もたくさんいますよ。遠賀町は、みんなの子育てをいつも応援中！子どものためのプログラムは、大人のためのプログラムでもあります！

私たちのまち  
私たちの生活  
大好き  
おんがらいふ



Q 学校での食育には  
どう取り組んでいますか？



A 毎年恒例！「子ども弁当手作りの日」  
を遠賀町の全校で実施しています！

小・中学校の昼食は普段給食ですが、自分で作ったお弁当を給食の時間に食べる「子ども弁当手作りの日」を設けています。また各教科や、学級活動に「食」をテーマとして取り入れ、多面的に食べ物の大切さなどを考える試みを行っています。



Q 違う学校のみならずとも  
交流したいなあ！

A 楽しいよ！  
みんなワクワク！「通学合宿」

1週間ほどの日程で、小学校4・5・6年生の子どもたちが集団生活を行いながらそれぞれの学校に通う「通学合宿」。炊事・洗濯・掃除などを自分たちで行って、自立性を身につけます。異なる学校・学年の子ども同士だけでなく、世話役として参加する地域の人もふれあい、世代を超えて交流できる貴重な機会です。



Q 子どもと一緒に参加しながら  
子育ての情報交換や親子の  
交流を楽しみたい！

A 子育て親子の交流ひろば「ぐっぴい」  
がぴったり！

子育てで感じる不安や疑問、悩みや喜びをみんなと共有。経験豊かな保育士さんに相談することもできます。遠賀町ふれあいの里で定期的に開催中！子育てサークルも元気に活動していますよ。

Q ママとパパって何するの？  
子どもが生まれる前に体験  
できる教室は？



A あります！  
「プレパママ教室」(両親学級)

赤ちゃんの誕生を心待ちにしているママとパパに、子育てについて学んでもらう教室です。赤ちゃんとの生活の話を聞いたり、お風呂の入れ方を体験したりできます。赤ちゃんが2人目以降の場合も参加できますよ。ママだけのプレママ教室(母親学級)もどうぞ。



遠賀町では、みんなが生涯現役！ たくさんの新しい出会い

「ボランティアは人のため、自分のため」と思えるしあわせ。「学び、楽しむ」姿勢

と、まわりの笑顔。@遠賀町

を遠賀町は応援しています。

「おんがらいふ」  
ずっと  
学び、楽しむ

生涯「学び、楽しむ」おんがらいふ♪

私たちが楽しんで  
やっていることが、  
みんなにも伝わって  
喜んでもらえれば  
うれしいとよ。



Q テーマを限定せず広範囲  
に活動しているグループを  
教えてください！

A いつでも向上心と元気でいっぱい！  
「遠賀町婦人会」

「自己の資質の向上と会員相互の親睦」をテーマに  
地域に貢献する女性のグループです。遠賀町のみならず  
社会情勢にも関心を持ち、各種の講習会などで  
高めた見識を活かして町政にも参画。また、町の  
イベントにも積極的に協力しています。

Q 演劇・芸能で  
地域の人に喜んでもらう  
活動をしてみたい！



A なんでも手作りのあたたかさ。  
「劇団ろまん倶楽部」

脚本から舞台装置・音響・照明まですべて手作りで  
活動している劇団です。また、民舞・フラダンス・  
大道芸(チンドン・玉すだれ・バナナのたたき  
売り)にも取り組み、町内外の施設への慰問も  
行っています。



Q 本の楽しさを知ってほしい！  
そんな活動をしている  
グループはありますか？

A 「大型紙芝居」や「読み聞かせ」など  
多くのサークルが活動中！

大型紙芝居や読み聞かせなど、本の楽しさを知  
ってもらうために、さまざまなグループが趣向を凝  
らした活動を展開しています。主なグループは  
「青い麦の会」「えほんぼこ」「おんがにじの会」「田  
園地域文庫ずくぼん」です。そのほか各小学校で  
読み聞かせを行うグループもあります。

Q 自然の中で遊ぶことの  
楽しさをもっと  
子どもたちに伝えたい！



A 「遠賀レクリエーションの会」で  
あなたの知識と経験が活かされます！

依頼に応じて、遊びと学びの教室を企画・実施し  
ています。カヌーやキャンプ、バードウォッチング  
など、アウトドアでの活動が得意です。また、遠賀  
町青少年育成町民会議と協働して、たごくり教室  
やたこあげ大会も行っています。

ひとくちコラム

遠賀町の  
「いきいき名人」  
ご紹介！

嶺さんの健康講座

いきいき名人

嶺 勝敏さん

(北九州医学術者協会名誉理事)  
虫生津に住む嶺さんが遠賀町立  
図書館で「細胞と『がん』の芽対策」  
をテーマに健康講座を行い、日本  
やアメリカのがん発生状況・最新の  
がん治療法や「がん予防14箇条(例えば  
「お酒は一日一合以下」)など、がんに  
ならない生活の心得について紹介し  
ました。嶺さんが図書館の本などを  
利用して、病気にまつまめとした「健  
康エッセイ」には、講座内容のほか  
も「がんのワクチン治療法」「嚥下と  
対策」「白内障と対策」が記されてい  
ます。この本は健康の大切さを痛感  
し、病気を医者任せにしてはいけない  
いと考えたことから生まれました。  
病気は自分自身が一番最初に気がつ  
くもの。病気の「一歩手前の「未病」の  
時点で対策を心がけることが重要で  
あるとしています。

●嶺さんの「健康エッセイ」は、皆さんに  
役立ててほしいと遠賀町立図書館  
で公開していますので、いつでもだれ  
でも見るすることができます。



寿大学の様子



出前講座の様子

遠賀町には、「学び、楽しむ」姿勢を  
持ち続ける人がたくさんいます。ま  
た、自分が楽しむだけでなく、日ご  
ろの活動の成果を地域のために役立  
てようとする人もいます。  
元気の源は「活動を通して刺激を  
受け、いろいろな体験ができること」  
何より、新たな出会いがあることで  
ね」と遠賀町婦人会会長の武富富子  
さん。「それに、人のために働けば、  
『ありがとう』と喜んでもらえます。  
人のためだけに、自分のためでもあ  
るから、周りの笑顔が何よりの活力  
ですね」。  
そのほか、さまざまな分野の知識を  
深めるために、中央公民館を会場とす  
る「寿大学」や各種の講座を受講する  
人役場の職員による「出前講座」を利  
用する人もいます。  
知りたいという意欲や学び続け  
る姿勢を遠賀町は応援しています。



遠賀町は「産業」もがんばっているのです。一流の技術

豊富な経験と確かな技術で、日本そして世界に向けた製品を、ここ遠賀町で

でみんなを支えています。@遠賀町

つくっています。製品は私たちの誇りです！

「おんがらいふ」  
がんばる  
遠賀の産業



## 株式会社 フィード

●ホテルアメニティ製造

常に前へ前へと動き、  
常に新しいものを提案し続ける  
ことで市場を切り拓きたい

ホテルアメニティ業界  
トップクラス



ココを  
がんばっています！

まつもと たいし  
松本 大志さん [研究室]

より良いものをつくるために、工場へは何度も足を運びますね。製造過程で生じる問題をみんなと一緒に解決しながら、製品をつくるのが好きです。

ホテル用の歯ブラシ製造会社として創業したフィード。現在は石鹸、入浴剤、ボディタオルなどさまざまな商品を取り扱っています。近年は、化粧品ブランドの設立や、小売市場への参入、さらにシャンプー工場の稼働など、次々と新事業を展開しています。企画から研究開発・製造・販売をグループ会社で一貫して行うことで、変化の早い市場ニーズを的確にとらえ、時代をリードする製品づくりを行っています。



## 株式会社 ワークス

●超精密機器製造

アイデアと創造力あふれる  
こだわりのモノづくりを  
世界へ発信したい

超精密金型製造の  
プロフェッショナル



ココを  
がんばっています！

の だ けんいち  
野田 健一さん [経営企画室]

設備機器の導入など、研究開発をサポートしています。世界に数台しかない機械を導入できたときは、やりがいを感じました。がんばった分、結果が見えるのがうれしいですね。

大量生産をする上で製造業になくはない存在の金型。ワークスは、携帯電話やデジタルカメラなどのガラスレンズ用の超精密金型などを製造しています。髪の毛よりも細いピンを1本から数千本単位まで同じ精度でつくるなど、「超精密」にこだわった匠のモノづくりを行っています。さらに納期・価格・生産量での徹底した「顧客志向」で、オンリーワンかつナンバーワンの精密金型メーカーを目指しています。



## 株式会社 釣り研

●釣りの具の製造販売

「釣りの喜び」を一人でも  
多くの人に伝えたい  
「釣りを科学する」ことで  
奥深さを伝えたい

ウキ製造、世界でも  
トップシェア



ココを  
がんばっています！

おなか かずゆき  
尾仲 一幸さん [総務部]

稚魚の放流や小学校プールでのニジマス釣り体験学習などの社会活動を担当しています。釣りをしているみんなの笑顔を見ると、とてもうれしいですね。

ウキといえど釣研。そういわれるほど、独自の理論と発想により日本古来のウキ釣りを「科学的」に研究しつづけて、釣り具の新たな需要を開拓してきました。今では国内はもちろん、海外でもウキ製造のトップ企業です。「釣りの楽しさを広めたい」という熱い思いを原動力に、ウキ以外にもルアー製造などの新規事業や稚魚の放流・海岸清掃・小学校プールでのニジマス釣り体験学習などの社会活動にも積極的に取り組んでいます。



## 日進化学株式会社

●ポリエチレンフィルム製品製造販売

絶対にあきらめない  
ポジティブに挑戦し、  
進化し続ける集団でありたい

全国展開する  
包装資材メーカー



ココを  
がんばっています！

いがらし ひかる  
五十嵐 光さん [品質管理室]

日々の品質管理の積み上げが、高品質評価の基礎です。お客様からのクレームがないように、検査にはいつも細心の注意を払う心がけています。

だけれどが普段何気なく手にしている包装資材。中でも加工が容易で、コンビニのポリ袋などにも使われているポリエチレンフィルムの製造を手がけているのが日進化学です。包装資材はコストとスピードが命であることから、顧客と工場をダイレクトにつなぐことで、低価格・短納期を実現しています。品質管理を徹底し、さらにミリ単位のオーダーメイドの製品づくりによって、柔軟に市場ニーズに 대응しています。



## 主要施設一覧

### 1 【遠賀町役場】



JR遠賀川駅から徒歩約10分のところにあります。同じ敷地内に中央公民館や図書館があり、利便性は抜群です。

〒811-4392  
遠賀町大字今古賀513番地  
☎ 093-293-1234  
☎ 093-293-0806  
🕒 8:30~17:15 ㊟土日祝・年末年始

### 3 【遠賀町立図書館】



約8万冊を蔵書している館内では、読書はもちろん、DVDやCDで映画や音楽を楽しむことができます。絵本の読み聞かせなど、楽しい企画も盛りだくさんです。

〒811-4392 遠賀町大字今古賀513番地  
☎ 093-293-9090  
☎ 093-293-9091 🕒 10:00~19:00  
㊟月曜・第4水曜・年末年始・特別点検整理期間

### 5 【遠賀コミュニティーセンター】



館内に多目的ホールを備え、講演会・ピアノ発表会・展示会などの催し物に利用されています。そのほか会議室・音楽室・和室などでは住民団体の会合や楽器練習なども盛んに行われています。

〒811-4302 遠賀町大字広渡23番地の6  
☎ 093-293-6525 ☎ 093-293-7057  
🕒 8:30~22:00 ㊟水曜・年末年始

### 7 【遠賀町ふれあいの里】



大浴場・大広間・食堂完備の「ふれあいの里センター」、民俗資料館、パン工房・麺工房・陶芸室がある「ふれあいの館」、宿泊も可能な「研修棟」などからなる総合福祉施設です。

〒811-4312 遠賀町浅木二丁目31番1号  
☎ 093-293-2030 ☎ 093-293-8506  
🕒 施設により異なる ㊟月曜・年末年始

### 9 【遠賀川漕艇場】



高校生・大学生の合宿所として、また九州朝日レガッタやおんがレガッタなどの大会会場として利用されています。

〒811-4301  
遠賀町大字島津339番地の1  
☎ 093-293-6525  
(遠賀コミュニティーセンター)  
🕒 8:30~22:00 ㊟年末年始

### 11 【町営遠賀霊園】



JR遠賀川駅から車で約15分のところにある町営の霊園です。町全体が見渡せる高台に位置し、眺望や四季折々の自然を楽しむことができます。

〒811-4321 遠賀町大字虫生津1714番地の1  
☎ 093-293-1234  
(遠賀町役場 行政経営課)  
🕒 開門7:00 閉門19:00(4/1~9/30)  
18:00(10/1~3/31)  
※彼岸・盆・正月の期間は24時間開門

### 2 【遠賀町中央公民館】



大ホールや多世代交流室などがあり、生涯学習活動の拠点施設として年間を通して各種催し物・講座・サークル活動などが行われています。平成22年度にリニューアルオープンしました。

〒811-4392 遠賀町大字今古賀513番地  
☎ 093-293-1355  
☎ 093-293-5533  
🕒 9:00~22:00 ㊟月曜・年末年始

### 4 【遠賀総合運動公園】



約17haの敷地に遠賀体育センター・遠賀コミュニティーセンターを中心として、多目的グラウンド・テニスコート・弓道場・相撲場・ゲートボール場・バットゴルフ場・キャンプ場などが整備された複合施設です。

〒811-4302 遠賀町大字広渡23番地の6  
☎ 093-293-6525  
(遠賀コミュニティーセンター)  
🕒 8:30~22:00 ㊟水曜・年末年始

### 6 【遠賀体育センター】



バドミントンコート4面分の広さの、多目的に活動できるアリーナを備えています。2階にはトレーニング室があり、運動不足解消にぴったりです。

〒811-4302  
遠賀町大字広渡1412番地の2  
☎ 093-293-5434  
🕒 8:30~22:00 ㊟水曜・年末年始

### 8 【遠賀町第1武道場】



柔道・剣道・空手などの稽古ができます。子どもから大人まで幅広く利用され、日々鍛錬を積んでいます。

〒811-4303  
遠賀町大字今古賀519番地の1  
☎ 093-293-1355  
(遠賀町中央公民館)  
🕒 9:00~21:30 ㊟年末年始

### 10 【遠賀町民体育館】



バレーボール、バドミントンなどの練習ができる全天候型施設です。住宅街の中にあり、周辺住民の健康増進に一役買っています。

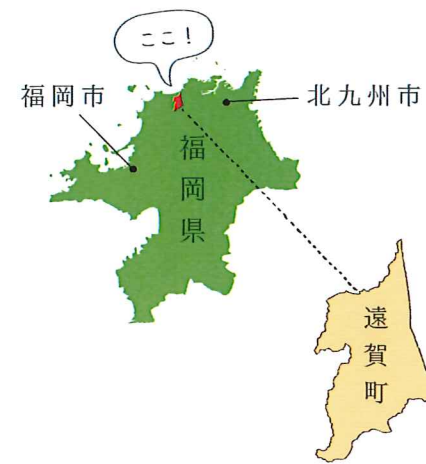
〒811-4343 遠賀町田園二丁目3番1号  
☎ 093-293-2004  
🕒 8:30~21:30 ㊟月曜・年末年始

### 12 【遠賀・中間地域広域行政事務組合】



中間市・遠賀郡(芦屋町・水巻町・岡垣町・遠賀町)の1市4町から構成される事務組合で、火葬・し尿処理・ごみ処理・消防などに関する事務を行っています。

〒811-4303 遠賀町大字今古賀603番地の1  
☎ 093-293-3581 ☎ 093-293-2162  
🕒 8:30~17:15 ㊟土日祝・年末年始



遠賀町には、遊ぶ・学ぶ・楽しむ・憩う・役立つ施設がたくさん。遠賀町の主要施設を紹介いたします。

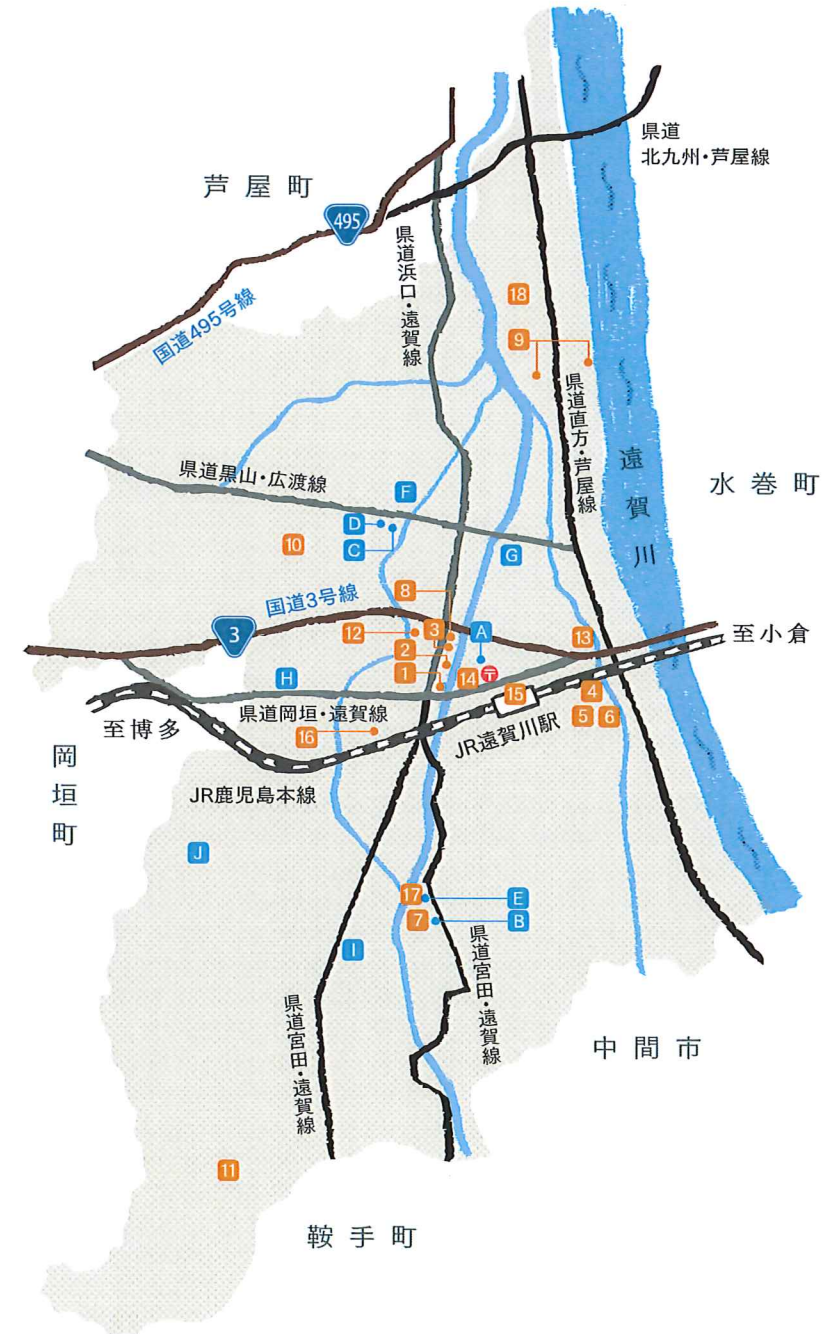
## 主要施設マップ

## 遠賀町へようこそ

- 【主要施設】
- 【保育・教育機関】

- 1 遠賀町役場
- 2 遠賀町中央公民館
- 3 遠賀町立図書館
- 4 遠賀総合運動公園
- 5 遠賀コミュニティーセンター
- 6 遠賀体育センター
- 7 遠賀町ふれあいの里
- 8 遠賀町第1武道場
- 9 遠賀川漕艇場
- 10 遠賀町民体育館
- 11 町営遠賀霊園
- 12 遠賀・中間地域広域行政事務組合
- 13 遠賀郡消防署
- 14 遠賀町商工会
- 15 JR遠賀川駅
- 16 今古賀中央公園
- 17 ふれあい広場
- 18 島津・丸山歴史自然公園

- A 社会福祉法人 遠賀会 遠賀川保育園
- B 社会福祉法人 朝木会 南部保育園
- C 社会福祉法人 童心会 山びこ保育園
- D 学校法人 遠賀学園 遠賀中央幼稚園
- E 遠賀町立 浅木小学校
- F 遠賀町立 島門小学校
- G 遠賀町立 広渡小学校
- H 遠賀町立 遠賀中学校
- I 遠賀町立 遠賀南中学校
- J 福岡県立 遠賀高等学校





## 統計データ



## 主要施設一覧

### 13 【遠賀郡消防署】



遠賀郡4町(芦屋町・水巻町・岡垣町・遠賀町)約9万8千人の安全・安心な暮らしをいつでも守っています。

〒811-4302  
遠賀町大字広渡1639番地  
☎093-293-1231  
☎093-291-4008  
🕒8:30~17:15 📄なし

### 14 【遠賀町商工会】



昭和36年に設立され、商工業者の経営支援や地域の活性化を図るためのさまざまな活動を通して、町のにぎわいづくりに日々奮闘しています。

〒811-4307 遠賀町遠賀川二丁目6番18号  
☎093-293-0165  
☎093-293-7196  
🕒8:30~17:15 📄土日祝・年末年始

### 15 【JR 遠賀川駅】



遠賀町唯一の駅(JR鹿児島本線)であり、鉄道のない芦屋町などの最寄駅でもあります。展示会や野菜の販売、「遠賀屋」も要チェック。

〒811-4307  
遠賀町遠賀川一丁目1番1号  
☎093-293-0017

### 16 【今古賀中央公園】



JR鹿児島本線沿いにある、一面が芝草におおわれた開放感あふれる公園です。さまざまな遊具のほか、園路や休憩施設もあり、子どもから大人まで幅広く楽しめます。

遠賀町大字今古賀235番地2  
☎093-293-1234  
(遠賀町役場 建設課)

### 17 【ふれあい広場】



浅木小学校とふれあいの里、遠賀南学童保育に囲まれていて、子どもの笑い声がいつも絶えない公園です。迫力のある恐竜の形をした遊具は子どもたちに大人気!

遠賀町浅木二丁目2405番地1  
☎093-293-1234  
(遠賀町役場 建設課)

### 18 【島津・丸山歴史自然公園】



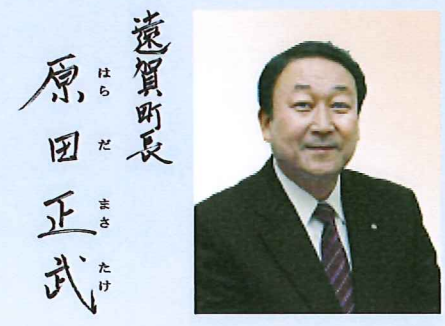
遠賀川下流域の古墳群を保全するため、平成8年に公園として整備しました。野鳥・樹木の学習案内板や石室の復元展示室なども設けられています。

〒811-4301 遠賀町大字島津564番地他  
☎093-293-1234  
(遠賀町教育委員会 生涯学習課)

## 保育・教育機関一覧

保育園	A 社会福祉法人 遠賀会 遠賀川保育園	〒811-4307 遠賀町遠賀川二丁目6番22号	☎093-293-0184	☎093-293-8335
	B 社会福祉法人 朝木会 南部保育園	〒811-4312 遠賀町浅木二丁目19番27号	☎093-293-2256	☎093-293-2257
	C 社会福祉法人 童心会 山びこ保育園	〒811-4333 遠賀町島門1番13号	☎093-293-2227	☎093-293-2109
幼稚園	D 学校法人 遠賀学園 遠賀中央幼稚園	〒811-4333 遠賀町島門3番1号	☎093-293-0097	☎093-293-0198
小学校	E 遠賀町立 浅木小学校	〒811-4312 遠賀町浅木二丁目3番7号	☎093-293-0009	☎093-293-2618
	F 遠賀町立 島門小学校	〒811-4341 遠賀町大字鬼津1058番地	☎093-293-0004	☎093-293-2446
	G 遠賀町立 広渡小学校	〒811-4302 遠賀町大字広渡1930番地	☎093-293-3711	☎093-293-3713
中学校	H 遠賀町立 遠賀中学校	〒811-4331 遠賀町大字別府200番地	☎093-293-0043	☎093-293-0052
	I 遠賀町立 遠賀南中学校	〒811-4332 遠賀町大字上別府652番地	☎093-293-5757	☎093-293-5758
高等学校	J 福岡県立 遠賀高等学校	〒811-4332 遠賀町大字上別府2110番地	☎093-293-1225 ☎093-293-1226	☎093-293-4314





町勢要覧の発行にあたり

私たちのふるさと遠賀町は、豊かな自然とあたたかい心を持った人でいっぱいのもちです。自然とその恵み、穏やかな地域性は、今を生きる私たちへの先人からの贈り物であり、未来へと引き継いでいくべき大切な財産です。都会と田舎の文化が融合した遠賀町。目まぐるしく変わる時代の中、今をしっかりと受け止めながら、第5次遠賀町総合計画の将来像である「笑顔と自然あふれるいきいき」おんが「くみん」なで育む絆のまち」の実現に向け、今後も遠賀町らしさを大いに生かしたまちづくりを皆さんとともに進めていきます。

この町勢要覧は、遠賀町の自然とそこで共生する人をテーマとしてまとめました。本冊子を通じて、遠賀町にもっともっと興味を持つ人が増えることを期待しています。

遠賀町議会



議長 副議長



議場

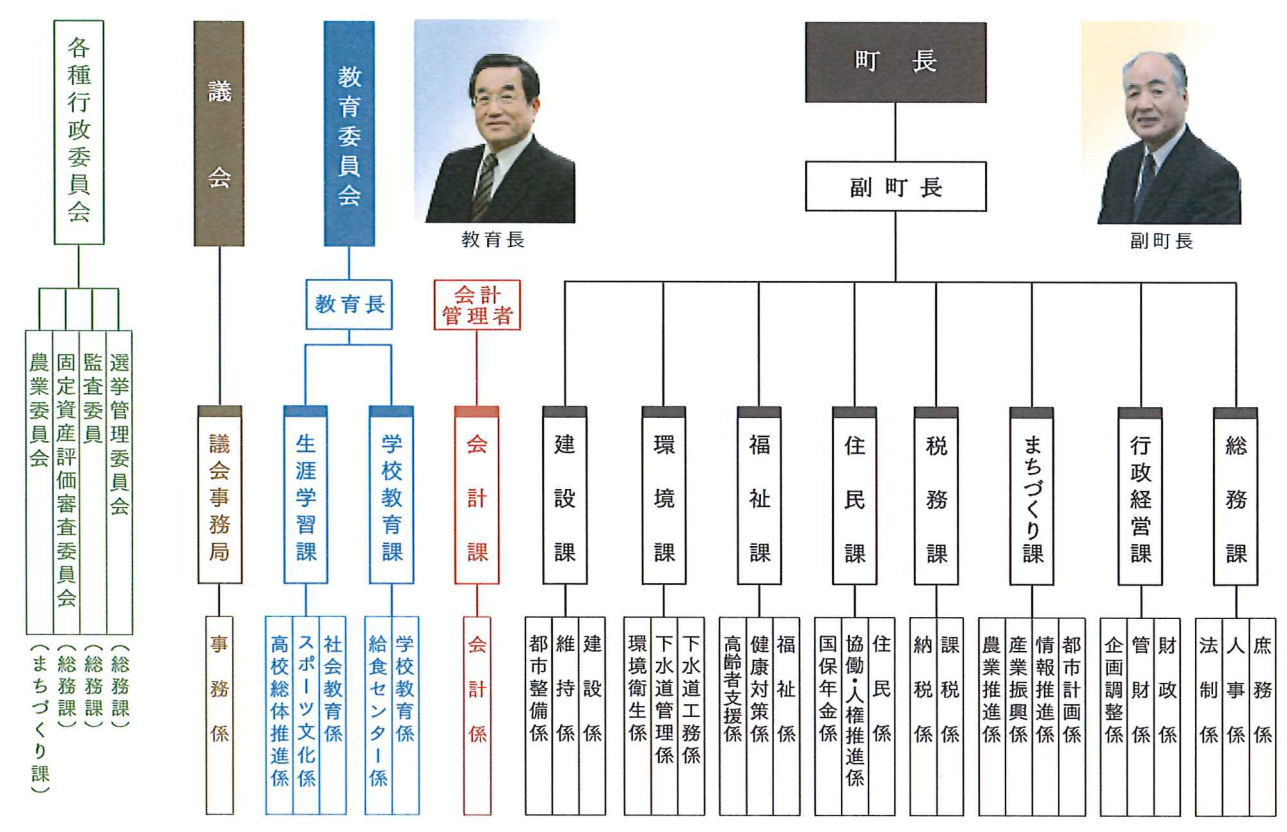


第一常任委員会



第二常任委員会

行政機構図 (平成24年4月1日現在)



「町の木」と「町の花」は、町制20周年を記念して町民に選ばれました



当時は遠賀町のどの家庭にも1本は植えられていて、初秋にさわやかに香るモクセイこそ遠賀町にふさわしいということで選ばれました。モクセイ科の常緑小高木で中国が原産。庭園木として愛され、秋なかばに星のような小さな花を無数に咲かせ、独特の芳香を漂わせます。



清らかで生命力があるスイセン。暮れから年の始めにかけて、一輪二輪と継続的に開花を始めるため、遠賀町の末永い将来を思わせるといって選ばれました。冬の寒さに耐え、雪の中でも美しいことから「雪中花」とも呼ばれ、気品溢れる清楚な姿、香りの高さが魅力です。